

令和元年度
若手消防団員意見交換会
報告書

兵庫県消防協会

目 次

1	神戸地区	1
2	阪神地区	2
3	東播磨地区	4
4	北播磨地区	5
5	中播磨地区	8
6	西播磨地区	10
7	但馬地区	12
8	丹波地区	14
9	淡路地区	16
10	令和元年度若手消防団員意見交換会実施状況	18

令和元年度若手消防団員意見交換会結果報告書

【神戸地区】

- 1 日 時 令和元年2月15日(土) 9:30~12:00
- 2 場 所 神戸市役所4号館1階本部役員会議室
- 3 出席者 消防団員 12名、その他 3名
※出席者は学生消防団員
- 4 意見交換

提案・対応策	<p>(どのような活動をしたいか)</p> <ul style="list-style-type: none">・消防職員と同じような訓練。・災害の被災地で救援活動をする。・他の消防団との合同訓練・地域住民との合同訓練・地域の防災訓練での指導・消防団が中心となる小学校・子どもへの防災教育 <p>(入団促進と活性化)</p> <ul style="list-style-type: none">・YouTube、Instagram等のSNSで消防団活動を発信する。・カッコいいポスターの作成。・福利厚生の充実。・消防団体験入団の制度を作る。・学校などで説明・防災授業をする。・スポーツ大会の開催。
--------	---

【阪神地区】

1 日 時 令和元年2月2日（日） 15：30～17：30

2 場 所 ホテルヴィスキオ尼崎

3 出席者 消防団員 15名 、その他 13名

4 意見交換

現
状
と
課
題

（消防団の現状）

- ・ 地区に若者がおらず、30歳代半ばが最年少で50歳代が中心になっている。
- ・ 消防団の存在を知らない人が多く、田舎にあるものというイメージを持っている人が多い。
- ・ 活動の時間がとれていない。
- ・ 自営業が多い地区で活動しているが、自分は会社勤めなので、平日の活動参加は難しく、定時後の災害対応などへ参加している。
- ・ 住民が少なくなってきており、条例定数を確保することが難しい。
- ・ 社会人になり家を出ると、地元へ帰ってこない若者が大半である。
- ・ 市外に住む者も在籍できるが、火災出動はできないため、対応できる団員の入団確保をしなければならないが、声をかけても断られ打つ手が無い。
- ・ 自分が在籍する分団には、地元出身者で固めたい気持ちがある。
- ・ 平日は仕事で帰宅が遅く、小さな子供もいるため、消防団活動が土日となると、家族の理解が得られにくい。
- ・ 友人を誘っても火を消す以外何をしているのか分からないと断られる。
- ・ 消防団は歴史があるものとなっているので、部外者を入れにくい雰囲気もある。関わりの少ない住民が入団することで、現場をSNSでアップしたり、分団に傷をつけるようなことはして欲しくない。規律を保持しつつ地域コミュニティを深め、信頼関係を築けるよう活動していきたいが、不安もある。

（消防団員の確保対策について）

- ・ ニュータウンの住民を取り込むことができるのかが課題。
- ・ 趣味の会う人、消防に興味を持っている人に声がけしてはどうか。
- ・ 子供のつながりから、友達作りの一環として入団したが、広報をもっとすべき。
- ・ 高齢の方が多く、若手が入団したとしても、会社勤めであれば、昼間の出動ができない。企業として配慮が必要。
- ・ 消防団は若者に敬遠されそうなイメージがあったが、入ってみたらそうでもなかったなので、活動内容やメリットを広報してはどうか。
- ・ 消防団のことは知らなかったが、消防士という職業に興味があり入団した。
- ・ 幼馴染や先輩後輩のつながりで女性消防団員の入団希望が多いのだが、妊娠中の団員等に対する休団などの配慮をして欲しい。

<p>現状と課題</p>	<p>(消防団の活性化について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報が少ないので、もっと消防団活動を発信すべき。企業へはメリットを訴えるなど情報発信すべき。 ・防災マップを見て、自分が住んでいる地域の危険個所が分かった。この知識をもって、自分のまちを守りたいと感じるいざという時に消防団員がいると思われたい。 <p>(消防団に入って良かったこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する知識が増えた。 ・年齢や職種を超えたふれあいができた。 <p>(消防団活動で困ったこと又は改善すべきこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団活動が見えづらい。 ・サラリーマンのことを考えた活動日程を組んで欲しい。
<p>提案・対応策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域へのアピールのため、消防団の制服を着て地域活動に分団として参加してはどうか。

【東播磨地区】

- 1 日 時 令和2年2月16日（日）9：30～11：30
- 2 場 所 稲美町いきがい創造センター
- 3 出席者 消防団員 18名、その他 7名
- 4 意見交換（グループ討議の後発表）

現 状 と 課 題	<p>（入団のきっかけ）</p> <ul style="list-style-type: none">・昔からの繋がり。（少年団、各種団体等）・親が消防団員であったので、何の疑問もなく自然に自分も入団した。・祭りでの勧誘。 <p>（普段の消防団活動について）</p> <ul style="list-style-type: none">・ポンプ車の点検。・火災時の活動（交通整理等）・水防活動・地元のまつりや少年団の活動等イベント時の交通整理。・LINEを利用した情報交換。・消火栓の点検。・水防用土嚢の準備。・年末に不審者の声かけ等の対応。・井戸の水交換（2か月に1度）・操法大会へ向けての練習。 <p>（消防団員確保）</p> <ul style="list-style-type: none">・一度転出（転居）し、再度地元へ帰ってきた若者への声かけ。・祭りでの声かけ。・子ども会や少年団の活動の中での声かけ。・親からのアプローチ。 <p>（消防団活動で困っていること、改善点）</p> <ul style="list-style-type: none">・人員確保の難しさ。（消防団への悪いイメージ、休日にゆっくり休めない、地元の人以外が入りにくい雰囲気の原因）・所持している免許の要件でポンプ車を運転できない団員がいる。・機材の使い方が分からず、災害対応できない。・操法が負担になっている。・活動費について、集落から費用が出るところとそうではないところがある。 <p>（消防団活動に参加してよかったこと）</p> <ul style="list-style-type: none">・資格を取得できたこと（AED、市民救命士）・年齢に関係なく繋がりができた。・消防及び防災に関する意識が変わった。
-----------------------	--

【北播磨地区】

1 日 時 令和元年2月14日(金) 19:00~21:00

2 場 所 北はりま消防組合加東消防署

3 出席者 消防団員 19名、その他 9名

4 意見交換

現 状 と 課 題	<p>(入団のきっかけ及び勧誘方法)</p> <ul style="list-style-type: none">・実家へ勧誘に來られた。・同級生が入団していた。・地元貢献につながるため入団。・地域の集まりで勧誘を受けた。・半ば強引に入団させられた。・地域のことを把握するために入団。・昔からの風習で入団。 <p>(消防団に入って良かったこと)</p> <ul style="list-style-type: none">・地域との付き合いやつながりのベースを築くことができる。・幅広い年齢層との交流がある。・地域の方々との交流が増え、友人や知人が増える。・困った時に何かと助け合える。・消防団のレクリエーション活動で懇親が図れる。 <p>(消防団に入って不満に思うこと)</p> <ul style="list-style-type: none">・分団長等の選出に揉めたり決まらなかつたりするので、選出方法を考えていくべき。(家族からの理解が乏しいことも一因)・休日や自分の時間がなくなってしまう。・疲労が大きい。・年末警戒や操法練習は夜間が多いので、睡眠不足で仕事にも影響する。・新入団員がいないので、いつ退団できるか分からない。・幽霊団員と、頻繁に団活動へ参加している人とで扱いが同じであること。 <p>※幽霊団員に対する対応</p> <p>西脇市支部→家族が連絡しても、どこにいるかも分からないような状況の方もいる。それ以外は皆さん連絡がとれ、参加もしてくれている。</p> <p>小野市支部→皆さん來られている。</p> <p>三木市支部→皆さん來られている。</p> <p>加西市支部→人付き合いが苦手な方は、半年に1回程度食事会を開き、まずはしっかりと人間関係を築いている。全員が参加しやすい環境づくりをしている。</p> <p>加東市支部→親に連絡をとり、頼んでいる。</p> <p>多可郡支部→連絡が取れても参加しない。連絡を返してくれない人には、退職金無しで退職させる申し立てをした事例もある。</p> <p>※消防団員さんへの連絡手段</p> <p>各支部→LINEを利用している。</p>
-----------------------	--

(団員確保のためにやっていること、すべきこと)

- ・勧誘できる団員が地域にいない。地域の人が増えないことには、なにもしできない。
- ・人の流出を防ぐため市町の活性化が必要（働く場所を増やす等）。人口増加が必須。
- ・現在、区長さんの協力で親から勧誘してもらうようにしている。
- ・入団のメリット（飲食店割引や防災士等の助成金の仕組みづくり等）が必要。
- ・現在ボランティアの部分が多いので報酬を上げるべき。
- ・昔の名残がある消防団が多く、禁煙、新年会等の集まりを減らす、夜間の活動を減らすことが必要。
- ・団員の活動への参加頻度の格差をなくす。参加頻度に伴う報酬にする。
- ・分団の合併も考える必要がある。

(女性消防団員の採用等について)

- ・想像ができないが、男性だけでは人数確保が困難なので、いずれはやむを得ずそういう時代がくるのかなと考える。
- ・力仕事メインになるので、女性で大丈夫なのか不安。
- ・男女でできることが変わってくると思うので、難しい部分もあるが、共同で行えることもある。その先に若い男女の出会いの場になる可能性もあるので、良いかもしれない。
- ・現在男性ばかりで、男性にしかない雰囲気がある。それが無くなるのは寂しい。
- ・人が確保できるのは良い点だが、現在男性のみで家庭の憂さ晴らしをする場にもなっているので、そういう場に女性が来るのはいかななものかと思う。

(消防操法大会について)

- ・新入団員がポンプを学んだり、消火活動を行うにあたっての必要な知識や基本動作を身につける良い機会になる。
- ・個人的に操法は災害現場で役に立たないと考えている。
- ・同じ人ばかりが大会に参加しているので、毎年行う必要があるのか疑問。
- ・仕事もある中で夜に練習するのは、体調面が不安。
- ・練習が負担で退団した人もいる。
- ・夏場の大会の開会式が長くて倒れそう。時期をずらす等工夫して欲しい。
- ・団結できる。
- ・他の班との交流ができ、交友関係が広がる。

<p>現 状 と 課 題</p>	<p>(操法大会への出場隊の決め方(多可郡支部より質問)) 西脇市支部→分団全隊出場し競い合い、1位になった隊が市大会へ進み、市大会で1位になった隊が北播大会へ出場する。 三木市支部→町で予選後、1位の分団が市大会へ出場し、市大会で1位になった隊が北播大会へ出場する。 小野市支部→西脇市支部、三木市支部と同様であるが、手抜きをする分団がいることから、1位と最下位が出場することになっている。 加西市支部→12分団持ち回りで市大会の出場が決まっている。市大会での1位の分団が北播大会へ出場する。 加東市支部→小隊別に決まっており、3年に1回のペースで出場する。市大会で勝つと北播大会へ出場する。</p> <p>(操法大会と別に現場に直結した訓練頻度について) 西脇市支部→年に2,3回ほど中継送水訓練をしている。消火栓の点検は月に1回行っている。 三木市支部→ポンプの点検は年2,3回しています。現在は実践訓練をしていない状況。 小野市支部→年に3,4回中継訓練をしている。土嚢工法訓練もしている。 加西市支部→市単位で林野火災を想定した訓練を年2回、各部では月1回ペースでポンプを動かして放水訓練をしている。 加東市支部→毎月の水出し訓練、小隊別訓練を年に1回している。年によっては無線機の取り扱い訓練をしたこともある。地域向けに消火栓の使い方を地域の方々に指導したりする訓練を年2回している。 多可郡支部→小隊での訓練を年2回、福祉施設が火事になった想定での訓練を年1回、ポンプの点検、消火栓の点検を月1回している。消火栓の使い方を地域の人に教える訓練を年1回行っている。</p> <p>(火災後の見回りや待機等について(加東市支部より質問)) 消防本部は、鎮火後の警戒等は消防団に頼っている現状がある。消防団から体力的に厳しいと伝えにくい部分もあるので、消防署から配慮してもらいたい。</p> <p>(分団の合併について(三木市支部より質問)) 西脇市支部→ここ最近合併した。町同士の話になるので、少し揉めたようだ。 多可郡支部→操法の練習をするために合併したことがある。消火栓の雪かきなどほぼ毎日しないといけないことがあり、人が少なくなると全てに対応できない現状があるため合併も必要である。</p>
<p>提 案 ・ 対 応 策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 操法大会をやめてハイパー消防団を結成し、南海トラフ地震等に対応できる消防団体制を作る。

【中播磨地区】

- 1 日 時 令和2年1月18日(土) 10:00~12:00
- 2 場 所 姫路市防災センター
- 3 出席者 消防団員 22名、その他 7名
- 4 意見交換

現 状 と 課 題	<p>(入団のきっかけ)</p> <ul style="list-style-type: none">・半強制的に入団。・地域柄、入団するのが当たり前となっている。・家族、先輩、知人等からの勧誘。・祭りなどのつながりから地域の人にお問い合わせされた。 <p>(活動)</p> <ul style="list-style-type: none">・車両、資器材等の点検。・防火水槽、消火栓の点検。・放水等の訓練。・防災訓練の指導。・消防操法。・運動会、自治会行事やまつり等の警備。・地域の見回り。・年末警戒。・地域で行うとんどなどの消火。・住宅用火災警報器の普及活動。・夜間パトロール。・山火事、台風等災害時の待機。・船舶火災、海中転落者の搜索。 <p>(良い点)</p> <ul style="list-style-type: none">・パトロール時に新たな発見がある。地域の様々な情報入手。・年齢の枠を超えた付き合い。・地元の人脈が広がる。・地域の人々との交流が楽しい。・防災スキル及び消防知識の習得。・子供にも人気。・消防車に乗ることができた。 <p>(辛い点)</p> <ul style="list-style-type: none">・行事等で休みがなくなり、日曜日などの休日も拘束される。・訓練や活動が多い。・年末警戒や夜中の火災出動など。・操法大会とその練習。・山火事での現場出動や活動。・行方不明者の搜索。・仕事や家庭との両立が難しい。・消防職員が現場到着した時の存在意義。
-----------------------	---

提 案 ・ 対 応 策	<p>(消防団員確保、消防団の活性化方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報酬等の手当てを手厚くする。 ・消防団活動に参加しやすい環境づくりが必要。(上下関係の適切な緩和等) ・祭り中心の警備員の確保。(青年団の活用等) ・引っ越し時での勧誘。 ・学生時からの声かけ。 ・出勤手当等のメリット。(町民税の減税等) ・免許取得の補助。 ・若手消防団員の指導方法の改善。 ・ベテラン消防団員の輪に入りやすい雰囲気づくり。 ・年末、年始の拘束をなくす。 ・婚活消防団員のための行事等の実施。 ・子供に関心を持ってもらう活動の強化。 ・地域活動の際に声をかける。 ・地元以外の人も入りやすいようコミュニケーションをとる。 ・自治会を通じて消防団をPRする。 ・事業所の理解を得られるようにする。
----------------------------	--

【西播磨地区】

- 1 日 時 令和2年2月2日（日）10:00～11:40
- 2 場 所 赤とんぼ荘
- 3 出席者 消防団員 15名、その他 9名
- 4 意見交換

現 状 と 課 題	<p>（入団のきっかけ）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 現団員からの勧誘。・ 親が入団していた関係で、自分も入団。・ 役場の職員であるため入団。・ 仕事の取引先の方からの勧誘。・ 自然災害を経験した時に団員に助けられたことがきっかけ。 <p>（普段の活動）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 車両、ポンプ、無線の点検。・ 年末警戒、消防出初式。・ 消防署との合同訓練。・ とんど警戒。・ 放水訓練、機関員訓練、水防工法訓練等。・ 消防広報。・ 自治会の消防訓練への参加及び指導。・ 消防操法大会。 <p>（消防団に入ってよかったこと）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 普段接することがない人と知り合えた。・ 地域の人や子供たちと交流ができた。・ 息抜きになる。・ 活動に参加することで経験を伝えられる。・ 知識の習得。・ 人命を救う現場に携われる。 <p>（消防団活動で困っていること）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 普段乗りなれない消防車で狭い道を運転することが緊張する。・ 仕事の都合で人が集まらない。・ 消防団員不足、若手団員不足。・ 私生活と仕事の両立が難しく、体力的にも厳しい。休日の活動も多い。・ 資器材の使い方や技術の継承がうまくできていない。・ 消防車の免許の関係で運転できない団員が増えている。
提 案 ・ 対 応 策	<p>（消防団員確保）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 友人や転居者への声かけ、行事等での声かけ。（消防車へ乗車してもらう等興味を持ってもらう）・ 有志で祭り等へ出店。・ 上下関係作り。

	<ul style="list-style-type: none"> ・もっとPRが必要。(魅力を伝える) ・若者が住みやすい町づくり。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">提案・対応策</p>	<p>(今後やってみたいこと、抱負等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは消防車に興味があるので、一緒に何かをやってみたい。 ・消防車を運転したい。 ・参加してくれる団員を少しでも増やしたい。 ・入団して良かったと思えるような環境づくり ・災害時のための情報収集。 ・一人暮らしなどの家の把握。 ・火災現場より自然災害が多いため、それに対応できる訓練。 ・団員の高齢化が進み、どのように活動を展開していくか。 ・消防操法大会へ向けた訓練。

【但馬地区】

1 日時 令和2年1月19日（日）10：30～12：30

2 場所 浜坂多目的集会施設

3 出席者 消防団員 16名、その他 7名

4 意見交換

現
状
と
課
題

（入団のきっかけ）

- ・ 職場や地元の先輩、知人からの勧誘。
- ・ 入団前に服や靴のサイズを聞かれ、入団せざるを得ない状況になった。
- ・ 地域の方々との交流がなかったので、入団させてもらった。

（消防団に入ってよかったこと）

- ・ 幅広い年齢の方々との交流する良い機会となっている。
- ・ 地域の方々との知り合い、つながりができた。
- ・ 人脈が広がり、居心地が良く、地域に根付くことができる。

（消防団活動で困っていること）

- ・ 操法大会へ向けての練習頻度が多くなってくると、負担になる。
- ・ 消防団のイメージが悪く、家族の理解を得られない部分があるので、イメージを良くすることが団員増加につながる。
- ・ 式典の来賓あいさつが長い。
- ・ お酒を飲む機会があるが、参加に対しては柔軟に対応できるような環境づくりが大切だと考える。自分自身が面倒だと感じており、勧誘の際に負い目を感じてしまうところもある。
- ・ 地元で仕事をしている人が少なく、外へ働きに出ている人が多い中、プライベートな時間を消防にとられるのは辛い。
- ・ 操法大会の負担が大きいですが、操法の練習がないと、普段のポンプ点検で、基本動作はなかなか覚えられない。相反している部分があるが、なんとかならないかと思う。

（操法大会について）

- ・ 操法大会は操作技術を習得するものだと思っているが、上位入賞することが目的ようになっており、本来の目的から外れている。
- ・ 優勝を目的と言ってしまうとそれまでだが、選手としてやっていると、優勝したいという気持ちも出てきて、結果として優勝できればうれしいという感じになっている。
- ・ 操法大会に出場して、自分は機械操作ができるようになったが、周りで見えていた人たちはどうかと思う。

現状と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 操法大会の練習を経験し、選手は時間が経過しても操作方法を身体で覚えている。練習は厳しいが、やってきただけのことは身につけている。・ 実践に特化した操法が良い。(整列や動作を揃える意味があるのだろうか。)・ 過去の選手たちから、操法大会の練習は身体に大きな負担がかかると聞いており、自分が当事者になった時に耐えられるか不安である。・ 確かに負担は大きいですが、達成感があり、とても勉強になった。半分お祭りみたいな感じでもある。・ 火災現場で大切なのは、規範と俊敏さの2つだと考える。それらを総合的に競技にしているのが操法だと思う。・ 操法をイベントとして残すのは良いが、火災を想定した実戦的な訓練が役に立つと思う。
-------	---

【丹波地区】

1 日 時 令和2年2月1日（土）18：00～20：00

2 場 所 丹波市消防本部

3 出席者 消防団員 15名 、その他 6名

4 意見交換

現 状 と 課 題	<p>(入団のきっかけ)</p> <ul style="list-style-type: none">・親戚、地元の先輩、知人から誘われて入団した。・結婚し、家を建てたときに誘われた。・退団者からの紹介で入団した。・親が消防団員で入団した。・自治会からの依頼で入団した。 <p>(普段行われている消防団活動)</p> <ul style="list-style-type: none">・点検、自治会への出役。・畔焼き警戒、溝の掃き出し。・月2回の巡回や清掃作業。・自治会の防災訓練や火災訓練。・水害の会議。・防火査察。 <p>(消防団に入って良かったこと)</p> <ul style="list-style-type: none">・幅広い年代の方と仲良くなれた。・地元の方と仲良くなった。・自治会の交流が広がった。・器具の取り扱いについて、自分の知識になった。・消防車両に乗ることができた。・地域の方々から色々な話を聞くことができる。 <p>(消防団活動で困っていること)</p> <ul style="list-style-type: none">・活動に参加しない団員がいること。・年末警戒時に警鐘がうるさいと苦情があり、消防活動に対する温度差を感じる。・若者がいない、人員の減少。・車の免許区分により運転できない車両がある。・休日の時間を取られてしまう、仕事との調整が難しい。・メールでは火災現場が分からない。・車庫にトイレがない、詰所が古い。・消火活動の危険性が高い。・消防団の役職に就いた時に対する不安。・退団するタイミングが分からない。
-----------------------	--

(団員確保のためにやっていること・すべきこと)

- ・行事やイベントの際に声をかける。
- ・家に訪問して勧誘する。
- ・Iターン者に声をかける。
- ・自治会長にお願いする。
- ・欠員が出れば声をかける。
- ・親世代に消防団活動への理解を求める。

(操法大会)

- ・正直必要ない。
- ・担当する番手の動きしか分からない。
- ・火事に必要な動きではない。
- ・スポーツとしての意味合いが強い。
- ・同じ人が出場している。
- ・夏場の暑い時期ではなく、涼しい時期に開催して欲しい。
- ・平日や休日の時間がとられる。
- ・年齢的に仕事終了後の練習はしんどい、仕事との調整が難しい。
- ・大会がなければポンプの出し方は分からなかった。
- ・安全性、基本操作の習得には必要だと考える。

(その他)

Q：器具等の点検は何人で行っているか。

A：少なければ1～2名。
5名ほどで実施。

Q：若い消防団員が定着しない原因は何であるか。

A：強制的に入団しているという意識。
お酒などのイメージ。
休日がつぶれること。
年齢が離れている方との接し方。

【淡路地区】

- 1 日時 令和2年2月6日（木）19：00～21：20
- 2 場所 淡路広域消防ビル
- 3 出席者 消防団員 14名、その他 5名
- 4 意見交換

現 状 と 課 題	<p>（入団のきっかけ）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地元の分団役員から勧誘、入団依頼されて入団した。・ 親が元消防団員であったため、自然な流れで入団した。・ 職場や地域の先輩からの勧誘で入団した。・ 消防団の事務局の仕事をしていて、異動になった際志願して入団。・ 長男は必ず入団しなければならぬ風潮があった。 <p>（普段の活動）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 毎月決まった日時に、器具の点検。・ 消火栓の蓋のペンキ塗りをしている。・ 災害時には前もって土嚢づくりをしている。・ 中継送水訓練等の訓練を行っている。・ 祭りの警戒。 <p>（入団して良かったこと）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 地域のコミュニティへ溶け込むことが出来た。・ 地域での知り合いが増えた。・ 幅広い年代や職種が違う人たちとつながりを持つことができ、様々な情報交換ができる。・ 防災意識の向上につながった。・ 地元の消火栓の位置を把握できた。・ 今までに知らなかった道や場所を覚えることができた。・ 福利厚生が良い。 <p>（入団して困っていること）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 所属分団から離れた所が職場なので、有事の際現場に間に合わない。・ 野焼きが多く、出勤機会が多いと職場に気を遣う。・ 年末警戒は夜遅くまでであるため、翌日の仕事が辛い。・ 台風等の待機で、拘束時間が長く、家族が避難したいときに、家にいられない。・ 勧誘する若手が減り、団の運営に悩んでいる。・ 出勤するにあたり、接客業をしているので、火災現場に出られない。・ 団員を勧誘に行っても、消防団活動に協力的ではない家庭も増えている。・ 新入団員（若手団員）が少なく、なかなか退団できない。・ 火災現場へ向かう際、防災メール等の情報だけでは現場に到着できない。
-----------------------	--

<p>提案・対応策</p>	<p>(消防団の活性化、消防団員確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知人を紹介してもらい、勧誘する。 ・消防団員が活動をしやすい環境づくりのため、事業所へ働きかける。 ・OB団員の方々に勧誘を依頼する。 ・外からの移住者にも積極的に声がけをする。 ・消防団活動は辛いものだと思われるので、楽しい面も紹介する。 ・新入団員とコミュニケーションをとり、楽しい組織であると感じてもらう。 ・消防団に対するイメージが悪いため、家族の理解が得られず入団しにくいとの声を聞くので、家族が参加できるような夏祭りを開催し、イメージアップを図っている。 ・正式入団前の、お試し期間を作ってはどうか。
---------------	---

令和元年度若手消防団員意見交換会実施状況

地区名	開催日	開催場所	参加団員数 (人)	階級内訳 (人)		
				部長他	班長	団員
神戸	令和2年2月15日	神戸市役所4号館1階本部役員会議室	12	0	0	12
阪神	令和2年2月2日	ホテルヴィスキオ尼崎	15	3	0	12
東播磨	令和2年2月16日	稲美町いきがい創造センター	18	6	1	11
北播磨	令和2年2月14日	北はりま消防組合加東消防署 会議室	19	15	0	4
中播磨	令和2年1月18日	姫路市防災センター 会議室	22	5	1	16
西播磨	令和2年2月2日	赤とんぼ荘	15	2	2	11
但馬	令和2年1月19日	浜坂多目的集会施設	16	2	0	14
丹波	令和2年2月1日	丹波市消防本部 訓練室	15	4	4	7
淡路	令和2年2月6日	淡路広域消防ビル	14	2	1	11
合 計			146	39	9	98